



おかあさんだいすき

まーじょりー・ふらっく 文・絵

光吉 夏弥 訳・編

岩波書店 1954年 672円

1冊 21×17cm

今日はお母さんの誕生日。ダニーはお母さんにあげるものを探しにでかけます。道々出会う動物たち、めんどり、がちょう、やぎ。みんなに聞いても、なかなかよいものはみつかりません。最後に訪ねていったくまが、ダニーをだきしめて、そっとないしょで教えてくれたものが一番いいおくりものでした。

色づかいの明るさと繊細な描線のやさしさ、繰り返しと駆けていくときの音（とっこ、ぴょんぴょこなど）の楽しさや、くまの登場で変わる展開のおもしろさを、小さな子どもも喜びます。

贈り物とは「物」ではなく「愛」だと感じられる絵本です。



おさとぼうしうり

エズフィール・スロボドキーナ さく・え

まつおか きょうこ やく

福音館書店 1970年 1155円

44ページ 22×17cm

売り物のぼうしを頭の上にのせて、それを売って歩くぼうしうり。ある日、ぼうしうりがひと休みしていると、さるたちにぼうしを取られてしまいました。ぼうしうりはぼうしを取り返そうと、指をつきつけたり、両手を振り上げたりしますが、さるは木の上でぼうしうりの真似をして「ツー、ツー」いうばかり。怒ったぼうしうりが、とうとう自分のぼうしを地面に投げつけると、さるたちも真似をしてぼうしを地面に投げつけました。ぼうしは地面におち、ぼうしうりはやっとぼうしを取り返すことができました。

カラフルで素朴な絵は、ぼうしうりとさるのキャラクターを魅力的に描き、お話の面白さを引き立てています。ぼうしを取ったさるたちの憎めない可愛らしさは子どもの可愛らしさに通じるものがあります。

